

特集：労働安全衛生法

【労働安全衛生法】

労働安全衛生法は、職場環境の安全を守る法律です。皆さんが、職場で受ける健康診断の根拠にもなっており、工事現場の高所での作業やアイドルが舞台上で飛翔する時の対応、オーケストラで指揮者の脇にある手摺り、そして職場でのストレスに対応したストレスチェック制度、職場環境での有害物質への対応等、多岐に及びます。鉱工業の事故への対策に始まり、50年前に労働基準法から分離したこの法律についての書籍を集めました。



【書籍の紹介】

★**労働安全衛生法** 労務行政研究所 (労働法コンメンタール 10) 労務行政 (2017.5) R366.34/240
労働安全衛生法が制定されて、50年が経過しました。この間の労働災害の発生状況を振り返ってみると、制定当時と比べ、死傷者数、死亡者数はともに大幅に減少しています。しかしながら、今なお死傷者数は年間50万人を超え、その社会的・経済的損失は膨大なものです。さらに、近年の高齢化の進展や産業構造の変化に伴い、脳・心臓疾患につながる有所見率や職場生活において疲労やストレスを感じている労働者の割合も増えています。このような現在の職場環境も踏まえながら、労働安全衛生法を逐条で解説します。

★**労働安全衛生法のポイント 改訂4版** 労働調査会出版局 【編】

木村 嘉勝 【監修】 労働調査会 (2019.4) 366.34/251

日本の高度経済成長の陰で、労働災害は増加し、多くの労働者の尊い命が失われてきました。労働災害保険の受給者も多くなっていました。当時の労働安全衛生関係の規制は、労働基準法の下で行われていました。その少ない条文の下で、新たな危険な機械や有害な化学物質の製造の規制、それらの流通段階での規制、建設工事での共同企業体(JV)等、特殊な労働関係などに対応させるため、1972年に労働基準法から分離独立した労働安全衛生法が施行されました。この法律をわかりやすい図を多用して、コンパクトに解説します。

★**担当者の共通の悩みはコレ！条文だけでは分からない労働安全衛生の実務 Q&A**

中山 絹代 第一法規 (2020.2) 366.34/255

2019年は、働き方改革に伴う労働基準法や労働安全衛生法の法改正があり、改めて、職場における労働時間管理をはじめとする労務管理や産業保健活動の在り方について見直しをした事業所も多かったと思います。特に労働安全衛生法は、法律、施行令、労働安全衛生規則、各種指針などにより構成される広大な体系の法律です。その解釈は通達によって示されるわけですが、ほぼすべての産業に適応されることで、規定している内容が幅広く、事業者規制だけではなく、多様な義務主体に対する規制もあり理解しにくい要因にもなっています。著者が受けた各種の相談の中から、解釈を誤りやすい事案などを集めてまとめています。



★最新労働安全衛生ハンドブック 新版 寺岡 忠嗣・石井 義脩 【共編】

新日本法規出版 (2019.2) R366.34/170/2

労働災害の発生件数は、死亡災害は減少しておりますが、その発生率は必ずしも低い水準とはいえません。背景としては、作業に習熟したベテラン労働者の不足、業務のアウトソーシングの進展による、現場に十分習熟しない協力企業の増加等が挙げられます。このような背景を踏まえ、これとは異なった切り口や視点での対策が求められます。また、仕事や職業生活に関する不安やストレスへの対応も必要になります。近年の法改正を踏まえて、労働安全衛生について、法令や通達などを表形式でコンパクトにまとめます。

★楽に読める安衛法概要と解説 尾添 博 労働新聞社 (2017.9) 366.34/243

労働安全衛生法（安衛法）は、他の法律がそうであるように、読み解くのに難解な法律です。これをできるだけわかりやすく読めるように、平易な言葉で記述をしています。厳密な表示をするときは、参照した条文を掲げています。そして、法律の条文に沿って総則から罰則まで順を追って語っていきます。

★ここからはじまる早わかり労働安全衛生法 新版

近藤 恵子・小林 浩志・中山 寛之 東洋経済新報社 (2016.12) 366.34/238

労働安全衛生法は、労働者の安全と健康を守り、労働災害を防止することを目的とした法律です。労働者が日々良好な健康状態を保ち、安全な環境の下で働くことが、この法律で定められています。皆さんが、会社で健康診断を年に1回受けるのも、この法律により実施されているのです。こうした健康診断を始めとした安全衛生管理体制、心身の不調を未然に防ぐためのストレスチェック制度など、この法律の大枠をつかむため図表を多用して解説します。

★すぐに役立つ図解と Q&A でわかる最新労働安全衛生をめぐる法律と疑問解決マニュアル 108

小島 彰 三修社 (2018.3) 366.34/246

安全な職場環境づくりに不可欠な「労働安全衛生法」の重要なポイントをQ&A形式で解説します。基本用語に関する説明から、安全管理体制や安全衛生教育、建設業における危険防止のための措置を具体的に説明します。また、万が一の労災保険の給付内容や手続きにも言及して、実務にも対応できるように書式も掲載します。

★労働災害動向調査報告 令和2年(2020) -労働災害動向調査事業所調査 労働災害動向調査総合工事業調査- 厚生労働省政策統括官付雇用・賃金福祉統計室 【編】 厚生労働省 (2021.11)
R366.34/3/47

この報告書は、主要産業における労働災害について、事業所規模10人以上の事業所における年間の災害発生状況を調査した「労働災害動向調査事業所調査」と、総合工事業の工事現場における年間の災害発生状況を明らかにした「労働災害動向調査総合工事業調査」の結果をまとめたものです。当労働情報コーナーには平成10年からの報告書を所蔵しており、この間の推移も調べることもできます。

★安全衛生のひろば 1999年6月号～ 中央労働災害防止協会 (月刊)

★安全と健康 2003年1月号～ 中央労働災害防止協会 (月刊)

中央労働災害防止協会から刊行されている逐次刊行物です。その時々に合わせて特集をそれぞれで企画してまとめています。単行書では、時機を逸してしまいそうな記事もありますので、上記図書と併せてご利用ください。最近数か月間の特集を紹介します。安全衛生のひろば：フォークリフト作業を安全に(3月号)、オンライン傾聴-上手な聴き方、活かし方(2月号)、安全な一年を足元から-安全靴・作業靴をチェック!(1月号)、年末こそ体のメンテナンス(12月号)。安全と健康：安全・安心な店舗・施設づくりに役立つ活動(3月号)、確認 溶接ヒューム対策(2月号)、変わる職場コミュニケーション(1月号)、事務所則 改正へ(12月号)。